

原則/ 事前の備え

事前の耐震化や家具の固定が第一

平成7年の阪神・淡路大震災では犠牲者の8割以上が建物の倒壊によるものでした。地震発生に備え、必要に応じて家屋の耐震補強や家具・窓などの対策を行いましょ。

※特に、昭和56年5月以前の建築物は、現行の耐震基準を満たさない場合があります。

揺れを感じたら/ その場そのときで命を守る行動を

まず身の安全を確保

屋内にいる場合と屋外にいる場合、海の近くにいる場合など、安全を確保するポイントをあらかじめ確認しておきましょう。

建物の安全を確認

火災が起きていないか、建物の被害がないか確認して、二次被害を防ぎましょ。周辺で火災が発生したり、建物が倒壊する危険があるときは、避難しましょ。



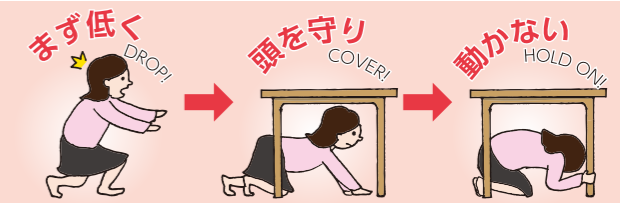
揺れに備える

- アンテナなどはしっかり固定
- 屋根の軽量化
- 揺れるものはひもで固定
- 柱・梁・土台を補強(耐震補強)
- ブロック塀ではなく生け垣等
- 消火器を設置
- 基礎を補強
- 窓や食器棚などのガラスには飛散防止のフィルムを貼る
- 扉に留め具
- 寝室の配置を考える
- 寝室の近くの窓にはカーテンか飛散防止フィルム
- 家具の転倒のおそれのある場所は避ける
- 枕元に靴*と懐中電灯
- *飛散ガラス等から足を守るために履物が必要
- 家具を固定する

！グッときたら

すぐに身を守る行動を！

地震発生時の安全確保行動 1-2-3 (Drop, Cover, and Hold On) とっさの行動ができるよう、日頃から訓練しておきましょう！



◎安全を確保するポイント

🏠 屋内にいる場合

身の安全を確保
揺れを感じたら、頑丈なテーブルや机などの下に身を隠し、頭を保護しましょ。

火の始末をする
火を使っていたら火を消しましょ。しかし、揺れの最中は危険なので、揺れがおさまってから消しましょ。

🌳 屋外にいる場合

公園・空き地・丈夫な建物へ
落下物の危険がない公園や空き地、頑丈な建物へ避難し、身の安全を確保しましょ。

落下物に注意
屋外にいるときは上から物が落ちてきたり、塀や壁などが倒れてくることに注意しましょ。

🌊 海の近くにいる場合

津波に注意
大きな揺れや長い揺れの場合は、直ちに高い場所などへ避難しましょ。

- 圧縮ポール(突っ張り棒)
- L型金具
- ※L型金具の固定は壁の下地のあるところや横木に
- すべり止め
- ※ピアノの固定方法はメーカーや購入店に相談しましょ
- ストッパー
- 平型金具

北九州市で想定されている地震

活断層※1 による地震

福岡県周辺では過去 100 年程度をみると、明治 31 年の「糸島地震」後、平成 17 年の「福岡県西方沖地震」のほかに、規模の大きな地震はほとんど発生していません。

しかし、平成 24 年の福岡県の調査※2 によると、市内を通る活断層による地震が起こった場合、市内で最大震度 6 弱（一部 6 強）の揺れが想定されており、地震による市内の死傷者は最大で 4,000 人以上にのぼると予測されています。

今後 30 年以内の発生確率は極めて低いとされますが、大地震はどこでも起こりうると考えて備えてください。



資料：福岡県地震に関するアセスメント調査報告書をもとに作成
頓田断層については、北九州市地域防災計画をもとに作成

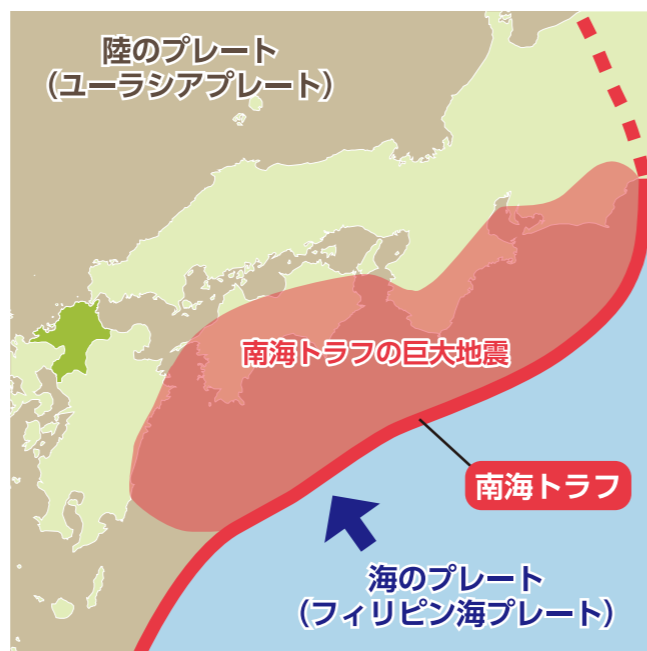
※1 活断層とは、ここ数千年の間に動いた形跡があり、今後も動く可能性のある断層のことをいいます。
※2 地震に関する防災アセスメント調査（福岡県）

プレート境界で起こる地震

日本周辺では、海のプレートが沈み込むときに陸のプレートを地下へ引きずり込んでいきます。陸のプレートが引きずりに耐えられなくなり、跳ね上げられるように起こるのが、プレート境界の地震です。

プレート境界の地震として、南海トラフでの巨大地震の発生が懸念されており、国の検討会※3 によると、市内では最大で震度 5 弱～5 強の地震が想定されています。

※3 南海トラフの巨大地震モデル検討会（内閣府設置）



地震体験車で地震の揺れを体験してみよう

北九州市消防局では、地震体験車を導入しました。地域や事業所・学校等での防災行事や防災訓練などの場面で、地震の揺れを体験することができます。申し込みは、各消防署予防課までお問い合わせください。

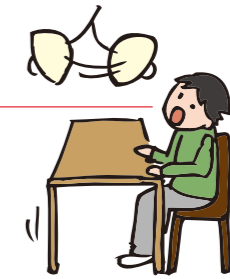


地震体験車（震度 2～7 までの揺れが体験可能）

地震の震度と感じかた

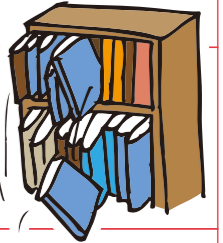
震度 4

ほとんどの人が驚く。
電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
座りの悪い置物が、倒れることがある。



震度 5 弱

大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
棚にある食器類や本が落ちることがある。



震度 5 強

物につかまらなると歩くことが難しい。
固定していない家具が倒れることがある。
補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 6 弱

立っていることが困難になる。
耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり建物が傾いたりすることがある。
倒れるものもある。



震度 6 強

はわないと動くことができない、飛ばされることもある。
固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。



震度 7

耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れる物がさらに増える。
耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



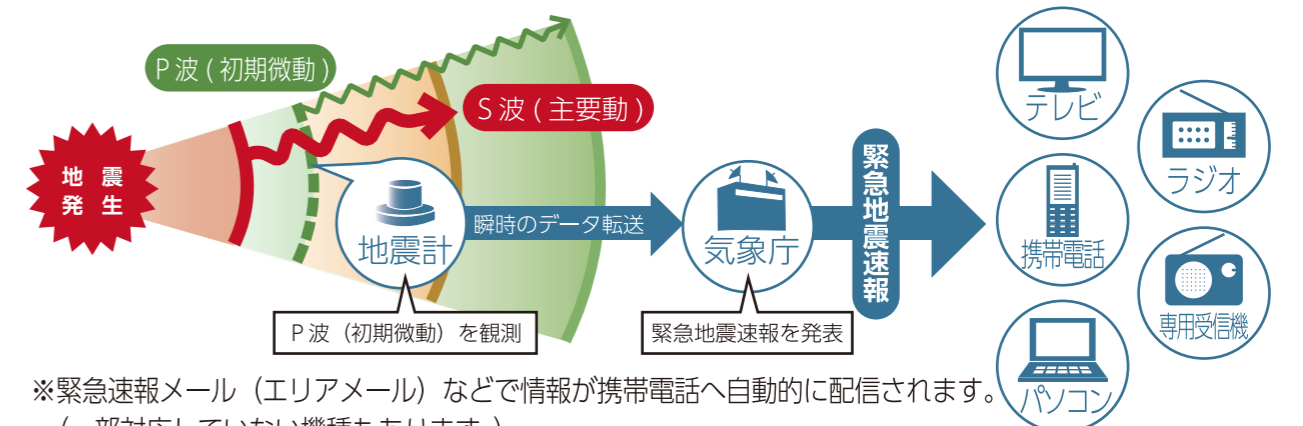
緊急地震速報は唯一の事前情報

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかです。この短い間に、落ちてくるものや倒れてくるものを避け、あわてずに身の安全を確保しましょう。

速報が間に合わない場合もありますので、地震の揺れを感じたときは身を守る行動に心がけましょう。

緊急地震速報って？

緊急地震速報は、地震の発生直後に大きな揺れが来ることを素早く知らせる情報です。



※緊急速報メール（エリアメール）などで情報が携帯電話へ自動的に配信されます。（一部対応していない機種もあります。）